

HONDA  
The Power of Dreams

Hondaの環境取り組み

### 3. 「自由な移動の喜び」と「豊かで持続可能な社会」 の実現をめざして



本田技研工業株式会社

経営企画部  
環境安全企画室

室長 篠原道雄



BLUE SKIES FOR  
OUR CHILDREN

HONDA  
The Power of Dreams

Honda の製品

BLUE SKIES FOR  
OUR CHILDREN



**HONDA**  
The Power of Dreams

## Honda 事業概要

BLUE SKIES FOR OUR CHILDREN



**社名** : 本田技研工業株式会社  
**本社** : 東京都港区南青山2-1-1  
**設立** : 1948年(昭和23年)9月  
**代表者** : 代表取締役 社長執行役員  
伊東孝紳  
**資本金** : 860億6716万円  
**売上高** : 9兆8779億円(連結)  
**純利益** : 4889億円  
**従業員数** : 19万人  
※2013年3月31日現在

**HONDA**  
The Power of Dreams

## Honda の世界生産拠点

BLUE SKIES FOR OUR CHILDREN



21カ国に 57の生産工場(オートバイ・自動車・汎用エンジン)

3. 「自由な移動の喜び」と「豊かで持続可能な社会」の実現をめざして




**Honda ビジネスの方向性**






世界中のお客様と喜びを分かち合うために  
 お客様のニーズをしっかりとらえ、  
 すべてのオペレーションを最速化、合理化し  
**「良いものを早く、安く、  
 低炭素でお客様にお届けする」**  
 ことに、チャレンジしていきます。



**Hondaの環境問題への考え方**



Honda グローバル  
ブランドスローガン

**HONDA**  
The Power of Dreams

21世紀の方向性

存在を期待される企業

- 喜びの創造
- 喜びの拡大
- 喜びを次世代へ
- 自由闊達
- チャレンジ
- 共創

CSRの重点テーマ

- 民主 従業員
- 社会
- 環境
- 地域 社会
- 安全
- 事業
- 品質
- 販売会社
- お客様
- 従業員
- 石野3氏


社 会

- 基本理念
- 運営方針


Honda フィロソフィー

ステークホルダー

- ① Honda環境宣言
- ② Honda環境・安全ビジョン  
「自由な移動の喜び」と「豊かで持続可能な社会」の実現  
Hondaグローバル環境シンボル
- ③ 【最重要課題】 気候変動・エネルギー問題  
【重要課題】 資源問題  
【関心課題】 生物多様性
- ④ Hondaが思い描く未来像  
**Triple ZERO**  
自前再生可能エネルギーによるCO<sub>2</sub>排出ゼロ化  
CO<sub>2</sub> Emissions  
Energy Risk エネルギーリスクゼロ化  
Waste 廃棄物ゼロ化
- ⑤ 製品における対応  
**HEPS**  
Honda Environmental Performance Standard  
Hi Efficient Products  
Innovative Products  
Revolutionary Products
- ⑥ 企業活動における対応



## Honda 環境宣言



### Honda環境宣言

地球環境の保全を重要課題とする社会の責任ある一員として、Hondaは、**すべての企業活動を通じて、人の健康の維持と地球環境の保全に積極的に寄与し、その行動において先進性を維持することを目標として、その達成に努めます。**

以下に、私たちの日々の活動にあたって従うべきガイドラインを示します。

1. 私たちは、商品の研究、開発、生産、販売、サービス、廃棄という**ライフサイクル**の各段階において、材料のリサイクルと、資源、エネルギーの節約に努めます。
2. 私たちは、商品のライフサイクルの各段階で発生する**廃棄物、汚染物質**の最少化と**適切な処理**に努めます。
3. 私たちは、企業の一員として、また**社会の一員として**、人の健康の維持と地球環境の保全に努力することが重要であると認識し、**積極的に行動**することに努めます。
4. 私たちは、事業所の活動が、それぞれの地域の人たちの健康と環境や社会に対し及ぼす影響について認識し、**社会から高い評価をいただけるよう**に努めます。

1992年6月制定・発表


すべての企業活動において

ライフサイクルで節約


廃棄物の適切な処理

社会の一員であることを認識し積極的に行動

社会から高い評価を頂けるように努める



## Honda の世界販売台数



### 世界生産台数

(百万台)

2.558万台  
(2012年度実績)

(年)

### 生産台数はこの10年で、約2倍以上へ成長！！

## 「自由な移動の喜び」と 「豊かで持続可能な社会」の実現

Realizing “the joy and freedom of mobility” and  
“a sustainable society where people can enjoy life”

Hondaは、2020年に向けて「良いものを早く、安く、低炭素でお客様にお届けする」という方向性を定め、また、すべての人が、心から安心して、どこへでも自由に移動することができる社会をつくることを目指して、「Honda環境・安全ビジョン」を定めました。このビジョンには、パーソナルモビリティに関わる製品・サービスを通して、お客様に感動を提供し続け、社会の持続的な発展と調和に貢献していきたい、というHondaの強い想いが込められています。

**Safety for Everyone**  
すべての人の安全をめざして

Hondaグローバル安全スローガン・ロゴ



BLUE SKIES FOR  
OUR CHILDREN

子供たちに青空を

Hondaグローバル環境シンボル

### ■ 自前再生可能エネルギーの導入により、Well-to-Wheel の観点でCO2排出のゼロ化を目指す。

製品の燃費向上や物流の輸送効率の向上など、製品のライフサイクルおよび企業活動におけるCO2排出の低減も含む

### ■ エネルギーマネジメント技術の進化による 環境管理の効率化で、エネルギーリスクの ゼロ化を目指す。

製品の燃費向上による使用エネルギーの低減、電動化技術によるエネルギーの多様化などで、エネルギーリスクを減少。Hondaの企業活動におけるリスクの減少に繋げる。

### ■ 資源の代替技術、3R技術の進化、水資源使用量の低減などにより、 すべての資源を無駄なく循環させて廃棄物をゼロにすることを旨とする。

有害化学物質の削減など、すべての環境負荷物質をゼロにすることを旨とする。

■ 生物多様性の保全のために最も重要なのは、自社の製品と企業活動による環境負荷を軽減していくこと。

一方で、地域社会と共生・連携して周辺環境の保全・育成を図っていくことが大切な取り組み。

## Triple ZERO



### 3. 「自由な移動の喜び」と「豊かで持続可能な社会」の実現をめざして



## 2020年環境負荷低減目標



・「気候変動・エネルギー問題」に対応するためには製品から排出されるCO2排出低減が最も重要と考え、新たに2020年を目標年とした「2020年製品CO2低減目標」を策定しました。

・2020年に向けては、これまでの方向性を継承しつつ、製品燃費・CO2燃費規制の強化など社会の要請の高まりを受け、それに先駆ける低炭素技術の更なる革新と、その普及拡大を加速していきます。

**2020年製品CO2低減目標(2000年比)**



**四輪車**

30%低減

g/km当たり



**二輪車**

30%低減

g/km当たり



**汎用製品**

30%低減

kg/1時間当たり

Hondaの製品から排出されるCO<sub>2</sub>の全世界平均値



## 企業活動による対応





すべての企業活動において環境負荷の低減の責務を自覚し環境保全活動に取り組む